同一で、然もツングース語とは別であることである。bars は元來波斯語でこれがトルコに傳はつたものであり、loo は想像上の靈物なる支那の龍の音を寫したもので、屢々トルコの古文學に現はれて居るものであり、metchin, bečin 即ち猿は Halévy[9] 氏によれば、波斯語の pûzineh,boûzineh（猿）より出て、トルコに入つたものといひ、Laufer[10] 氏によれば希臘語の πιθωγ 或は πιθηχος から出で Hellenistic cycle が中亞に擴つた時に、トルコに傳はつたものであらうといふて居る、元來此の獸はトルコ族の據つた地方に住まないので、その名が十二支獸の中に現はれて居るのは、トルコ起原說を唱へる人には甚だ障碍になつて居る譯であるが、これがそのまゝ蒙古にも用ひられて居るのは注意すべきことである。もし蒙古の十二支獸の考がツングース族から傳はつたものとすれば、彼等は何故に此等の三者の名をそれから借りないで、別にトルコに行はれた名稱から取つたかを說明するに苦しむであらう、女眞語滿洲語の猿に當る莫嫩（móh-nén, móh-nûn）monio, bonio はトルコ語の bäčin と關係ある語であらうが、蒙古では之に據らないで、全くトルコの bäčin と同一である、思ふに蒙古族はトルコ族から十二支獸の考を傳へ、その普通の名稱はそれぞれ自分の言葉に譯したが、此等三種の特種の名は、もとの名をそのまゝ用ゐたに過ぎないであらう、それで bars を波斯語と見、bečin なる語の語原が波斯語もしくは希臘語から出たものと見、そうして此等の語の蒙古に入るに至つたのは、十二支辰象の考を傳へた時にあると見るのは蓋し自然の見方であらう、Laufer 氏は西夏で猿を韋（wei）といふのもトルコの bä（čin）より傳へたものであると考へたが、[11] もし然らば恰かも蒙古に於ると同一の場合と見るべきである、或は蒙古族の祖先でトルコ族より以前に既に十二支獸の名を用ゐたものがあつて、その名稱が突厥に入つたものであらうと考へるものがあるかも知れないが、それには何等の